

# 第3回 アドバイザリーボード（R3.1.20（水）開催）の概要

4つの経営理念等	構成員の主な取組	主なアドバイス
1 経営層のリーダーシップ 2 安全への投資の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会長トップメッセージの発出</li> <li>●業界としての基本方針の制定</li> <li>●理事会、労働安全衛生部会等の開催(web併用)</li> <li>●業界としての年間安全衛生推進計画の策定</li> <li>●リスポンシブル・ケア(RC)活動の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個社に任せるのではなく、業界団体がリーダーシップを取って、業界全体で進めるとよい。</li> <li>●業界団体としての意見交換ができる場があるとよい。</li> <li>●リスポンシブル・ケア(RC)活動をPRし、広く展開していただきたい。</li> </ul>
3 安全人材の育成や安全教育の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「産業安全塾」、各種研修会のweb開催</li> <li>●経験年数の浅い作業員への安全対策の取組</li> <li>●業界としての安全衛生教育体系の検討・制定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「産業安全塾」は、産・官・学が関係しており、人材育成のみならず、ネットワークづくりにも寄与しており、他業界でも参考にしてほしい。</li> <li>●安全衛生教育体系を制定することは有用。</li> </ul>
4 業界内外への共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安全衛生大会の開催（webで開催することにより例年以上の参加があった）</li> <li>●安全重点方針の策定</li> <li>●管理監督者体験交流会等の開催</li> <li>●安全衛生表彰</li> <li>●安全統計の作成・分析</li> <li>●災害事例の水平展開（団体のホームページで会員企業に公開。検索機能付き）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協力会社やサプライチェーンも視野に入れて取り組んでいただきたい。</li> <li>●安全表彰受賞事業所の活動事例を集めた「ベストプラクティス集」に学ぶことはよい取組である。</li> <li>●災害が高止まりしている場合は、詳細な分析を行い、危険源を特定して対策を講じないと災害が減らない。</li> <li>●災害事例や統計の分析結果の共有は重要である。</li> <li>●AI、IoTを活用した安全対策の情報共有を進めるとともに、技術活用を進めてほしい。</li> </ul>
5 新型コロナ感染症対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報収集（各種ガイドライン、会員企業アンケート）</li> <li>●職場環境への対策（室内換気、更衣室の使用制限[作業服通勤を認める]、共用部分の消毒、テレワーク、web会議等）</li> <li>●健康管理（検温、マスク着用[熱中症に配慮]、体調不良時の自宅待機等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●好事例や懸念事項は参考になるので、業界や官民で共有するとよい。</li> </ul>

## <総括>

- 前回のアドバイザリーボードでコメントした強度率について、ほとんどの団体が分析に活用していることは評価できる。今後は、詳細に分析を行って対策を講じることにより、災害の減少に結び付けていただきたい。
- 他業界の好取組を学ぶ場合は、非常に有意義なことであり、本日の好事例を参考にいただき、更に取り組を進めていただきたい。
- トップの関与は重要であり、コロナの状況が落ち着いたら、トップ会談を行って業界全体で方針を決め、共有化しながら展開して行ってほしい。
- 安全衛生の確保に向けた取組を形だけのものにならないためには、KPI（重要業績評価指標）のような指標を業界団体が定めて進捗状況を把握しながら推進することが有効である。